



介護者側の思い込み ～意外なグレーゾーン～

私の思う意外な「グレーゾーン」

- ・「できる」のに
「してもらわない」「させない」「介助してしまう」
- ・「職員が行ったほうが早い」「業務が回らない」
→DH、GHで感覚が違う（DHは通いの為）
- ・ケアプランを無視した対応
→何のためにケアプランがあるのか？

実際の様子

- ・1日座ったままの利用者様が多いなと思っていた。
- ・生活記録が白紙、また連日白紙の利用者様がいた。
- ・○○を実施してみての報告が、口頭だけなことが多い。
- ・なんで一緒に作業しないんだろう...という場面を度々見かけていた。
- ・今そのことを行うことによって、今後の業務に支障あるかな...という場面があった（人によって考え方が違うと思います）。

「職員の意識」に注目

- ・利用者様への思い込みやイメージもあるが
「施設で働く介護士」という意識、また、その内容も各々
違うと思う。
- ・「施設で働く介護士」
→食事を食べさせ、入浴させ、夜は寝させる。でいいのか？

利用者様できること、残存機能の再確認

- ・各担当利用者様のできそうなこと、させてみたいことを考え、小集団用のケアプランを考案、実施（2か月）。

ケアプラン内容（抜粋）

- ・起床時、布団を畳んでいただく
- ・調子のいい時は散歩をしたり、体操やレクに参加し、動きのある生活にする。
- ・食事を早出ししない、すぐに介助しない。

etc...

実施中の様子（抜粋）

- ・手伝って、と声かけると「なにすればいいんだね～」と笑顔みられた。
- ・「おれ（手伝い）する！」と積極性みられた。
- ・調子の悪い時期と被り、声かけても拒否。

私自身の感想

- ・今まであまり作業を促してこなかったが、利用者様に手伝っていただいても業務は回っていたし、時間が押した感じはなかった。
- ・作業が習慣づきはじめ、「やろか？」と積極性が見られたのはよかったです。
- ・私自身夜勤が多く、日頃あまり関われない担当者様と作業をしながらだが、ゆっくり話す時間がてきてよかったです。

感想（抜粋）

- ・職員の意識づけになった。
- ・食事介助に入る基準が各々違い、以前と違いを比べるのが難しかったように思う。
- ・毎日は継続しなかった。
- ・利用者様に変化なく最終的に何が目的なのか分からない。

利用者様に無意識に求めてしまっていること

- ・完璧な出来栄えの作業

→職員がやり直す手間が発生してしまう。

→面倒、業務が押す。

- ・職員のペースにしてしまう

→利用者様の良いタイミングが読めれば実施できたかも？

→作業をしているとその場から離れられなく、他の職員に
申し訳ない気持ちから、作業を促さない。

施設介護とは・・・

- グループホームとは「認知症対応型共同生活介護施設」
→利用者様を預かるのが仕事ではないと思う。
職員や他の利用者様と“共同生活”をし、自立した生活を目指したり、認知症の進行を緩めるのが目的。

一日座っていて“共同生活”できているといつていいのか？

定義と現場の差

- GHさくらは比較的介護度も高く、定義通りの介護は難しいのも現実。
 - その中でも残存能力を発揮、維持できるような介護をしていくことで、自立度を高める。
 - 職員の負担も軽減されるのでは？
状態が落ちてしまうことはあってしまうが、介護が悪く、状態を“落としてしまう”ケースもあるように思う。

まとめ

- ・「仕事が回らない」と、よく聞くが、利用者様に作業をしていても業務は回るし、時間も大きくは押さない。
→職員の思い込みなことも多いかも？イレギュラーな場面もあるが職員の都合なのかも...
- ・「できるのに、させない」が常習化すると、それは「ネグレクト」になる。
→完璧な生活、作業を求めるのは介護士のスタンスではない。
してもらうことのメリットを考えるのが介護士の仕事の一つ。

ご清聴ありがとうございました

